

JICA 教師海外研修 学習指導案・授業実践報告書

【実践者】

氏名	岡田 紘明	学校名	千葉県市川市立稲荷木小学校
担当教科等	全教科	対象学年 (人数)	4年生 (61名)
実施年月日もしくは期間 (時数)	2020年11月～2020年12月 (13時間)		

【実践概要】

1. 実践する教科・領域：国語科・総合的な学習の時間		
2. 単元 (活動・主題名)：平和への思いを稲荷木小から発信しよう		
3. 授業テーマ (タイトル) と単元目標 授業テーマ：SDGs ゴールと争いのない社会 単元目標：戦争 (争い) をなくす方法をSDGsの開発目標と関連付けて考える。 関連する学習指導要領上の目標 <u>総合的な学習の時間</u> 探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を通して、よりよく課題を解決し自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成する。		
4. 単元の評価 規準	①知識及び技能	世界の多様性や日本との繋がり、世界の抱える問題への理解を深めている。
	②思考力、判断力、表現力等	相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた題材を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にして書こうとしている。(国語科)
	③学びに向かう力 人間性等	進んで世界の抱える問題を自分ごととして捉え、学習の見通しを持って、自分にできることを考えている。
5. 単元設定の理由・単元の意義 (児童／生徒観、教材観、指導観)	【単元設定の理由】 昨今の日本は、グローバル化の一層の進展により、外国からの留学生や観光客、就労者がますます増加している状況である。教育現場においても、外国にルーツを持つ児童とともに学習することは、もはや珍しいことではなくなっている。日本で学ぶ外国人留学生の数は、1983年からずっと右肩上がりである。 一方、日本を出て外国で学ぶ学生の数は、減少傾向にある。私は、国境を越えた人の移動が活発化する現代社会においては、よりグローバルな視点を持つ児童生徒の育成が求められていると考え、本単元を設定した。	
	【単元の意義】 小学4年生の子どもたちにとって、戦争は身近なことだとは言いがたい。それは、後のアンケート結果からも明確である。そこで、本単元を教科横断的に扱うことで、「戦争のない世界」と「SDGsの開発目標」を結び付け、平和への貢献を「自分ごと」として、具体的な行動に結びつけていくことができるのではないかと考えた。	
	【児童観】 本学級の児童は、事前アンケートの結果、3分の1以上は、日本が過去に戦争をしたことがあることすら知らないことが分かった。また、知っていると答えた19名の児童も、「戦争があったということしか知らない」という答えであったり、具体	

的な内容に関しては誤った認識をしていたりする児童も多い。そこで、国語科の「一つの花」の教材だけを扱うのではなく、ゲストティーチャーの活用、戦争に関する絵本の読み聞かせ、映画鑑賞など様々な角度から、予備知識を与えてやる必要性を感じた。また、「平和のために何か行動したいか」「具体的にどんなことをしてみたいか」という問いに対しては、30名中28名が肯定的な回答をしており、子どもたちなりに今の社会への問題点や改善が必要な点を感じ取っていることが分かった。具体的には、以下のような問題意識を持っている。

- ・家族や友だちとけんかをせず、仲良くする 8人
- ・ゴミを減らす、すてないようにする 7人
- ・コロナウイルスにかからないように対策をする 5人
- ・世界の色々な国の人たちと仲良くする、交流する 4人
- ・地球温暖化対策をしたい 1人
- ・ルールを守って生活したい 1人

この視点を切り口に平和とSDGsゴールをつなげて考えさせるようにしたい。

【指導観】

本単元を通して、子どもたちに現代社会の抱える問題に対する意識を高めてほしいという思いはもちろんある。しかし、それと同時に、4年生になって、発言することを恥ずかしがったり間違えたりすることを恐れる児童が増えてきているという課題を、話し合う内容を明確にしたり目的意識を持たせたりすることで、改善していきたいとも考えている。具体的には、国語科の学習問題をWhich型とし、「子どもが選択、判断する」場面を設定したり思考ツールをもとにした話し合い活動を行ったりしていく。このような活動が、予測不可能と言われるこれからの時代を生きる子どもたちに必要な能力を身につけることにもつながると考えている。

6. 単元計画 (全14時間)

時	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1	10年後の自分たちのくらしを考えよう (総合的な学習)	・SDGsの17のゴールを知る。	・10年後の自分について想像してみる。 ・SDGsに関わるパワーポイントを見て、現代社会が抱える様々な社会問題について知る。	
2～10	平和への思いを稲荷木小から発信しよう (第1部) (国語科)	・戦時中の人々のくらしの様子について読み取る。	・映画「この世界の片隅に」を鑑賞し、戦時中の人々の暮らしについて理解を深める。 ・教科書教材「一つの花」(教育出版4年上)の本文から、登場人物の様子や気持ちを読み取る。	DVD 「この世界の片隅に」
11 12	平和への思いを稲荷木小から発信しよう (第2部) (総合的な学習)	・平和への思いを手紙にし、折り鶴と一緒に佐々木貞子さんへ届ける。	・市川市被爆者の会の方をゲストティーチャーとして招き、出前授業を行う。 ・絵本「おりづるの旅」の本文を読み、佐々木貞子さんの生涯について読み取りを行う。	絵本「おりづるの旅」
13 本時	どうして戦争(争い)は起きるのかを考えよう (道徳科)	・争いが起きる原因をSDGsの目標と比較して考える	・ふだんの自分たちの学校生活で争い(ケンカ)が起きる時の原因について考える。	

7. 本時の展開 (13時間目)			
本時のねらい: SDGs の開発目標を目指すことが、争いを減らす方法の1つであるということに気づくことができる。			
過程・時間	教員の働きかけ・発問および学習活動 ・指導形態	指導上の留意点 (支援)	資料(教材)
導入 (5分)	1 前時までの学習内容を振り返る ・戦争の悲惨さや人々の暮らしを振り返る。 ・折り鶴作りは心情面での行動であり、実践面で何か出来ることはないか問いかけ、戦争の原因について考えさせる。	・「一つの花」「おりづるの旅」などの教材で学習したことを想起させる。	
<p>どうして戦争(争い)は起きるのかを考えよう</p>			
展開 (5分)	2 戦争の原因について考える ①ふせんに自分が考えた原因を書かせる (例) 資源の問題、領土問題、民族同士の対立政治への不満 など	・「戦争」でイメージが浮かばないようにであれば、自分たちの喧嘩の原因を振り返ってみよう助言する。 ・人同士のトラブルが起こりやすい場として「避難所生活」の写真を提示する。	社会科資料集
(10分)	②班ごとに仲間分けを行う (クラゲチャートを活用)		思考ツール一覧表
(5分)	3 争いの原因をSDGsの開発目標と関連づけて考える。 (例) 資源問題: 開発目標1、2、3、6、7、10、13、14、15	・児童がSDGsの開発目標を想起できるような掲示物を準備しておく。 ・SDGsの17の目標は一つ一つが独立したものではなく、相互に関わり合っていることを確認しておく。	
	4 各班で作成したチャートの交流を行う	・他の班のチャートを見て、自分たちとの相違点や共通点をワークシート	

(5分)		に記入するよう助言する。	
まとめ (5分)	5 地球温暖化問題やゴミ問題について考える ・ツバルに関する写真絵本の読み聞かせを行う。	・実物投影機を活用し、全児童に写真の様子がわかるように配慮する。	写真絵本「地球温暖化、しずみゆく楽園 ツバル」
(5分)	6 戦争をなくすために必要なことを考える (例) 水を大切に使う 電気をこまめに消す ゴミを減らす 食べ残しをしない など	・一見つながりが見えにくいSDGsの開発目標を目指すことが、戦争をなくしたり減らしたりするための手段であることに気づかせる。 ・つながりに気づきにくい場合は、ツバルで起きている事例について、自分の家庭や家族に置き換えて考えさせる。	

8. 評価規準に基づく本時の評価方法

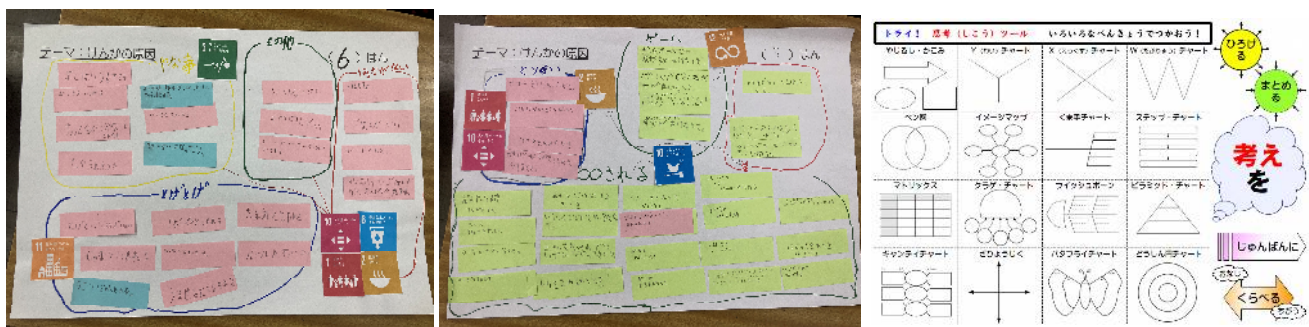
- 争いの原因を進んで考え、班の友だちと協力してチャートにまとめることができる。
- 争いの原因とSDGsの開発目標を関連づけて考えることができる。

9. 学習方法及び外部との連携

○被爆体験講和

市川市被爆者の会に所属する児玉三智子さんをゲストティーチャーとして招き、被爆体験についてお話していただいた。児玉さんは、7歳の時に広島市内で被爆し、現在82歳。被爆者の声を生で聞くことのできる機会はこの先、少なくなる一方である。昨今の事情もあり、zoomを使った授業ではあったが、児童にとっても教職員にとっても大変貴重な時間となった。

○思考ツールを活用したグループワークの実施



小学校4年生にとって身近な事とは言い難いSDGsの問題を自分たちのケンカの原因となっていることを思考ツールを使ってまとめ、考えさせることで、「自分ごと」として考えられるように工夫した。

10. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組

- 千葉県教師海外研修報告会にて実践発表
- 千葉県教育研究会市川市会国際理解教育部会にて実践発表
- 校内研修として国際理解教育授業公開を実施

【自己評価】

1 1. 苦勞した点	ある程度事前に想定していたことではあるが、4年生という発達段階においてSDGsについて考える授業はかなり難しいものであった。気候変動やクリーンエネルギー問題などのSDGsの土台となる知識であるゴミ、水、防災の学習は4年生の後期になってようやく扱う内容である。工夫次第で小学校中学年でも扱えないことはないと思うが、高学年の方がより深い学びを行えるのではないかと考えた。
1 2. 改善点	<p>上にも記述したように、SDGsゴールを意識した活動は土台となる基礎知識が不可欠であると感じた。そのため、小学校低・中学年で実施する場合は、17のゴールすべてを扱うのではなく、いくつかに絞ること、分かりやすくかみ砕いて伝えることの必要性を感じている。</p> <p>今回の私の実践では、主なターゲットは16「平和と公正をすべての人に」であるが、子どもたちに「争いのない平和な世界を目指すにはどうしたらいいだろう？」と問いかけても、具体的な行動はなかなか挙がらなかった。そこで、戦争を「友だち同士の喧嘩」や災害時の避難所生活に置き換えることで自分ごとと捉えさせようと試みた。何かしら、スモールステップの手立てを考える必要性を感じている。</p>
13. 成果が出た点	本時において、ふせんと思考ツールを活用し、子どもたち自身のケンカの原因とSDGsゴールを結び付けて考える学習を行った。その結果、4年生の子どもたちなりに積極的に話し合いを行い、班ごとにグルーピングをしたり、それぞれのグループごとにどのSDGsゴールと結びつくかを考えたりする姿が見られた。SDGsについての知識はまだまだ不十分であるが、自ら考え、意見を出し合う姿は新しい学習指導要領の中で求められている「予測不可能な社会」を生き抜く力につながるものだと考えている。
14. 学びの軌跡(児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)	<ul style="list-style-type: none"> ・この授業で、戦争を止めるには、小さいことをやっていくことが大きなことに結びついていくのだと分かった。これからは、SDGsを意識して生活したい。 ・今日の授業を通して、「ツバル」が困っていることは分かったが、世界では他にどんなことに困っている国があるのかをもっと知りたいと思った。 ・自分たちが地球温暖化の原因になってしまっているかもしれないということを初めて知りました。
15. 授業者による自由記述	<p>授業を行う前は、小学校4年生の子どもたちにとって、SDGsについて考えることはハードルが高いと考えていた。実際、知識の不足などから難しさも多々感じたが、それ以上に児童の「持続可能な社会」への意識の高さに驚かされた。多くの子どもたちが「これは何とかしなければ」と「自分ごと」として考え、自分に何ができるかを真剣に考え、仲間と話し合う姿が見られたことには大変驚いた。今回の学習では、主に国語科の学習と結び付け、平和について考えさせたが、社会科の「ゴミや水の行方」に関する学習と結び付けても面白いのではないかと感じている。</p> <p>来年度以降は、実際に現地を見て学んだことを生かして教科横断的にカリキュラムマネジメントを行って授業を行っていききたい。</p>

参考文献：佐藤真久『未来の授業 私たちのSDGs探究BOOK』宣伝会議（2019）

佐藤真久『SDGsライフキャリアBOOK』宣伝会議（2020）

山本敏晴『地球温暖化 しずみゆく楽園ツバル』小学館（2008）